

平成29年度

全国学力・学習状況調査
福岡県学力調査

柳川市立小・中学校 調査結果の概要



平成29年12月

柳川市教育委員会

平成29年度 全国学力・学習状況調査、福岡県学力調査

柳川市立小・中学校 調査結果の概要

－ 目 次 －

I 調査の概要	2
1 調査目的	
2 調査対象	
3 調査日及び調査教科	
4 調査内容	
II 学力調査結果の概要	
全国学力状況調査の結果	3
1 柳川市の平均正答率の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学）	
2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学）	
福岡県学力調査の結果	5
1 柳川市の平均正答率の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学）	
2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学）	
III まとめと今後の取組	7
1 学力向上に向けた柳川市教育委員会の基本方針	
2 柳川市立各小・中学校の学力向上についての取組の状況と課題	
3 柳川市児童生徒の学力向上に向けての施策と基本構想	

※ 付記

全国学力・学習状況調査の「学力調査問題」及び「児童生徒質問紙調査」「学校質問紙調査」の内容及び平成29年度の全国の調査結果と福岡県の調査結果以下のホームページにてご参照ください。

○ 全国学力・学習状況調査の問題及び結果（既に掲載）

国立教育政策研究所

教育課程研究センター 「全国学力・学習状況調査」 [URL : http://www.nier.go.jp/](http://www.nier.go.jp/)

○ 福岡県学力調査の結果（福岡県教育委員会ホームページに掲載予定）

福岡県教育委員会 義務教育課

「平成29年度全国学力・学習状況調査調査結果報告書・福岡県学力調査結果報告書」

[URL : http://gimu.fku.ed.jp/Defaultl.aspx](http://gimu.fku.ed.jp/Defaultl.aspx)

平成29年度 全国学力・学習状況調査、福岡県学力調査

柳川市立小・中学校 調査結果の概要

I 調査の概要

1 調査目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、柳川市教育施策に基づく取組の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

○ 全国学力・学習状況調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校（全 19 校） 第 6 学年の児童 532 名 ・ 中学校（全 6 校） 第 3 学年の生徒 573 名
○ 福岡県学力調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校（全 19 校） 第 5 学年の児童 524 名 ・ 中学校（全 6 校） 第 2 学年の生徒 541 名 ・ 中学校（全 6 校） 第 1 学年の生徒 533 名

3 調査日及び調査教科

調査種別	調査日	調査教科及び項目
○ 全国学力状況調査	平成 29 年 4 月 18 日（火）	国語（小・中）、算数（小）、数学（中）
○ 福岡県学力調査	平成 29 年 6 月 20 日（火）	国語（小・中）、算数（小）、数学（中）

4 調査内容

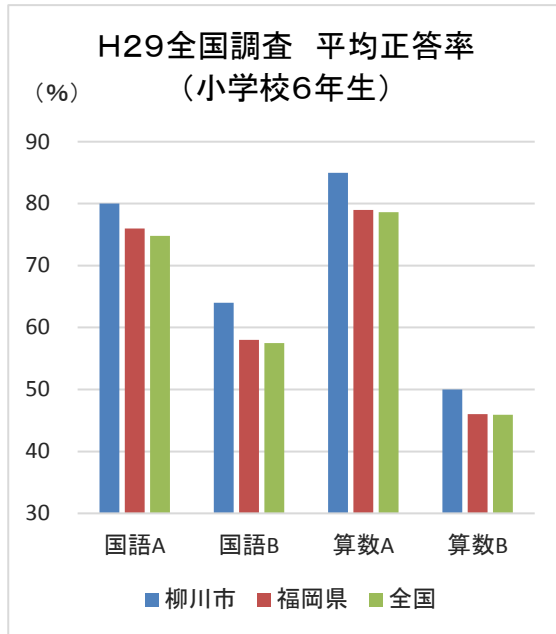
<p style="text-align: center;">主として「知識」に関する問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査 [国語 A、算数・数学 A] ○ 福岡県学力調査 [国語、算数・数学 基礎問題] 	<p style="text-align: center;">主として「活用」に関する問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査 [国語 B、算数・数学 B] ○ 福岡県学力調査 [国語、算数・数学 活用問題]
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身につけておかねばならず、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などに関わる内容 ・ 様々な課題解決のための構想を立て、実践・評価する力などに関わる内容

II 学力の結果

全国学力状況調査の結果

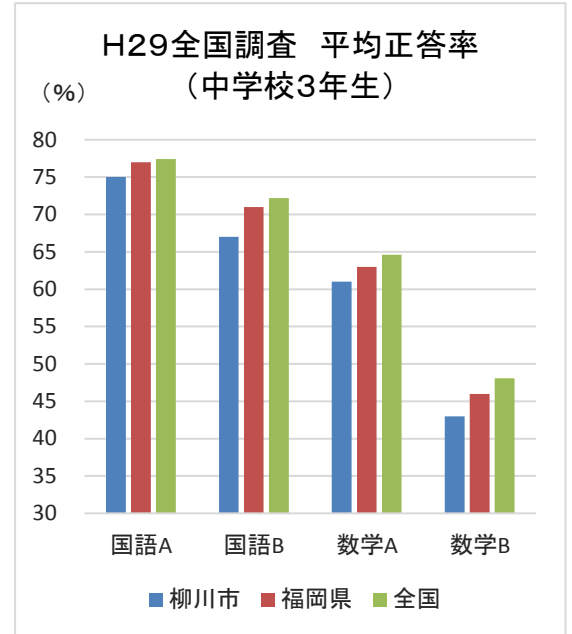
1 柳川市の平均正答率の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学）

小学校



小学校	国語A	国語B	算数A	算数B
柳川市	80	64	85	50
福岡県	76	58	79	46
全国	74.8	57.5	78.6	45.9
全国差	+5.2	+6.5	+6.4	+4.1

中学校



中学校	国語A	国語B	数学A	数学B
柳川市	75	67	61	43
福岡県	77	71	63	46
全国	77.4	72.2	64.6	48.1
全国差	-2.4	-5.2	-3.6	-5.1

【全体の状況】

- 小学校においては、国語、算数のA問題・B問題の全てが全国平均正答率をかなり上回っている。
- 中学校においては、国語、数学のA問題・B問題の全てが全国平均正答率を下回っている。
- 平均無解答率（解答していない問題）は、小学校では国語、算数の全ての問題において全国より低い。中学校では無回答率が全国より高い。

【小学校】

- 国語の平均正答率は、国語A問題では全国平均を5.2pt上回り、B問題では6.5pt上回っている。
- 算数の平均正答率は、算数A問題では全国平均を6.4pt上回り、B問題では3.3pt上回っている。

【中学校】

- 国語の平均正答率は、国語A問題では全国平均を2.4pt下回り、B問題では5.2pt下回っている。
- 数学の平均正答率は、数学A問題では全国平均を3.6pt下回り、B問題では5.1pt下回っている。

2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学）

（1）小学校国語

【国語A】

- 「言語文化と国語の特質」領域の「漢字の読み・書き」については、全問全国正答率を上回っている。
- 「書くこと」領域の「手紙の構成を理解し、後付けを書く」において、全国平均を14pt上回っている。
- 「書くこと」領域の「目的や意図に応じて内容の中心を明確に書く」や「読むこと」領域の「俳句の情景」にやや課題が見られる。

【国語B】

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」領域の「目的や意図に応じて話の構成や内容を工夫し、場に応じて考えを話す」で、全国平均を12pt以上上回っている。
- 「読むこと」領域の「登場人物の相互関係や場面の描写を捉える」で、全国平均を9pt程度上回っている。

（2）小学校算数

【算数A】

- 「数と計算」領域の「加法と乗法の混在の式」「商を分数で表す」において、全国平均を17pt以上上回っている。
- 「図形」領域の「正五角形は五つの合同な二等辺三角形で構成されている」において、全国平均を13pt近く上回っている。
- 「数と計算」領域の「小数と整数の加法」についてやや課題が見られる。

【算数B】

- 「数と計算」領域の「示された条件を基に、適切な式を立てることができる」において、全国平均を6pt上回り、理解の程度が高い状況にある。
- 「量と測定」領域の「仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述できる」において、全国平均を15pt上回っている。
- 「数量関係」領域の「示された割合を解釈して基準量と比較量の関係を表している図を判断できる」にやや課題が見られる。

（3）中学校国語

【国語A】

- 「言語文化と国語の特質」領域の「漢字を書いたり読んだりする」「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」において、全国平均を上回り、習得できている。
- 「話すこと・聞くこと」領域の「事実と考えの関係」や「書くこと」領域の「書いた文書を助言を基に見直す」において、全国平均を5pt程度下回っている。

【国語B】

- 「書くこと」領域の「必要な情報を集めるための見通しを持つ」が、全国平均より20pt以上下回っている。
- 「話すこと・書くこと」領域の「目的に応じて資料を効果的に活用して話す」や「話の論理的な構成や展開などに注意して聞く」が7～8ptほど下回っている。

（4）中学校数学

【数学A】

- 「数と式」領域の「正の数と負の数を含む加減乗除の計算」や「整式の加法と減法の計算」等において、ほぼ全国と同程度に理解できている。
- 「資料の活用」領域の「範囲の意味理解」「度数分布表について、ある階級の相対度数を求める」「確からしいの意味理解」において、全国平均を8pt以上下回っている。

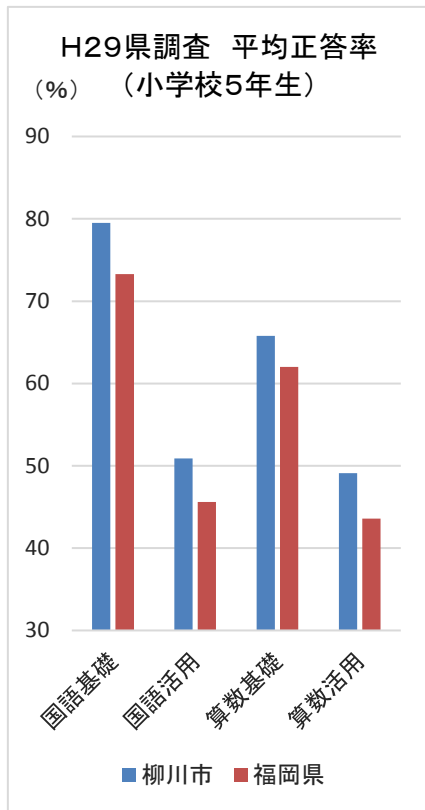
【数学B】

- 「関数」領域の「数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理することができる」が、全国平均を10pt以上下回っている。
- 「数と式」領域の「説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現することができる」が、全国平均を9pt下回っている。

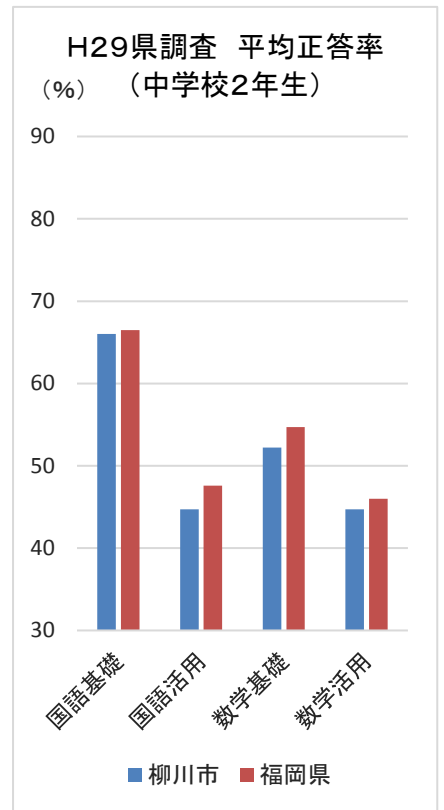
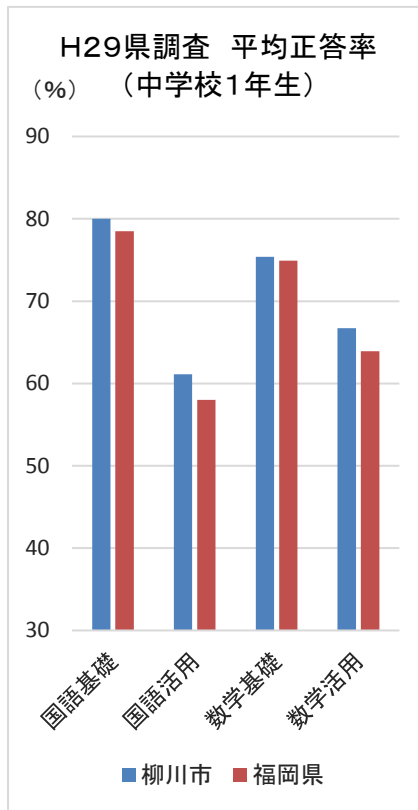
福岡県学力調査の結果

1 柳川市の平均正答率の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学）

小学校



中学校



小学5年	国語基礎	国語活用	算数基礎	算数活用
柳川市	79.5	50.9	65.8	49.1
福岡県	73.3	45.6	62.0	43.6
県差	6.2	5.3	3.8	5.5

中学1年	国語基礎	国語活用	数学基礎	数学活用
柳川市	80.0	61.1	75.4	66.7
福岡県	78.5	58.0	74.9	63.9
県差	1.5	3.1	0.5	2.8

中学2年	国語基礎	国語活用	数学基礎	数学活用
柳川市	66.0	44.7	52.2	44.7
福岡県	66.5	47.6	54.7	46.0
県差	-0.5	-2.9	-2.5	-1.3

【全体の状況】

- 小学校5年生においては、国語、算数の基礎・活用問題の全てが県平均正答率をかなり上回っている（+3.8pt～+6.2pt）。
- 中学校1年生においては、数学の基礎は県平均正答率程度であり、国語の基礎・活用、数学の活用は、県平均正答率を上回っている（+0.5pt～+3.1pt）。
- 中学校2年生においては、国語の基礎は県平均正答率程度であり、国語の活用、数学の基礎・活用は、県平均正答率を下回っている（-0.5pt～-2.9pt）。

2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学）

（1）小学校5年生

【国語】

- 「接続語を使って内容を分けて書く」「ローマ字を書く」「漢字を書く」が、県平均正答率を大きく上回っている。
- 「インタビューの質問の意図を捉える・質問する」「インタビューをした内容と資料の情報を組み合わせて理解する」が、県平均を大きく上回っている。
- 「言葉の学習」「漢字を読む・書く」は、どの問題も県平均を上回っている。

【算数】

- 全問が県平均を上回っている。
- 「図形」領域の「ひし形の作図に用いられている円や図形の性質がわかる」、「数と計算」領域の「 $25 \times 4 = 100$ をもとに、 25×36 の答えが900になることを説明する」、「数量関係」の「折れ線グラフや表から間違いを正しく説明する」が、県平均を大きく上回っている。
- 「数量関係」領域の「四則混合計算の式に合った場面を選ぶ」、「量と測定」領域の「図形の面積の求め方の間違いを正しく説明する」が、県平均を上回っている。

（2）中学校1年生

【国語】

- 「文の中における主語と述語の関係を理解する」が、県平均を大きく上回っている。
- 「小学校で学習した漢字を読む・書く」のほとんどの問題が県平均を上回っている。
- 「文学作品の内容を読むこと・聞くこと」が県平均をやや下回っている。

【数学】

- 「量と測定」領域の「1 km走るのにかかる時間で速さを比較する方法を説明する」が、県平均を上回っている。
- 「数と計算」領域の「乗数と積の大きさ、除数と商の大きさの関係を理解している」、「数量関係」領域の「百分率関係の問題」や「場合の数」が、県平均を上回っている。
- 「数量関係」領域の「比例の関係をxとyを使って表す」「文字を使った式が表す場面を選ぶ」等が、県平均をやや下回っている。

（3）中学校2年生

【国語】

- 「小学校で学習した漢字を書く」が、県平均を上回っている。
- 「第1学年までに学習した漢字を読む」「辞書を活用して意味を理解する」が、県平均を下回っている。
- 「自分で課題を決めて、それに応じた情報を集めるための方法を理解している」が、県平均を下回っている。

【数学】

- 「数と式」領域の「加減乗除を含む正負の計算ができる」「かっこを含む一次式の計算ができる」等が、県平均を上回っている。
- 「数と式」領域の「数量の関係を文字式に表すことができる」が、県平均を下回っている。
- 「資料の活用」領域の「度数分布表から相対度数を求める」「誤差の意味を理解し、真の値の範囲を不等式で表す」「与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理する」が、県平均を下回っている。

Ⅲ まとめと今後の取組

1 学力向上に向けた柳川市教育委員会の基本方針

柳川市教育大綱、教育施策に基づき、小・中学校9年間にわたって「学ぶ目的意識の醸成」を図りながら、確かな学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等）を身につけさせ、未来の柳川を担う子どもを育成すること。

2 柳川市立各小・中学校の学力向上についての取組の状況と課題

(1) 小学校

- ・ 全小学校において模擬授業をはじめとした事前研修が実施されており、そのことが実践的・具体的な研修となり、学力向上への要因のひとつと考えられる。
- ・ ノートに「めあて」や「まとめ」を書くことを初めとして、本市の小学校が取組んでいるノートの書き方の指導が効果を上げてきている。また、昼休みや休日に図書館へ行く児童が多いなど、読書活動への関心が高く、学力向上への素地となっていることがうかがえる。

(2) 中学校

- ・ 全中学校において調査結果から「めあて」と「まとめ」、「振り返り」のある授業の実施が向上してきている。各中学校で授業改善が進んできている。
- ・ 教科間、学年間の格差が大きく、教師の授業力のさらなる向上が課題である。授業研究を伴う研修の強化が求められる。また、全職員による結果分析や課題の共有がさらに必要である。

(3) 小・中学校共通

- ・ 本市が重視している計画・実施・評価・改善の教育活動が各学校で実施され、特に小学校においてしっかりと推進されており、学力向上に結びついていることがうかがえる。
- ・ 市内6中学校区ごとの小・中学校間における授業交流をさらに取り入れた研修を進めていく必要がある。
- ・ 中学校区内において、全国学力調査や県学力調査を初めとして様々な結果(定期テスト、学力テスト等)を分析し、情報を共有しながら9年間見通した児童生徒の育成が求められる。
- ・ 小・中学校共に、自分によいところがあるという意識が全国に比べて低い傾向を示しており、自尊感情の醸成が求められる。

(4) 家庭との連携

- ・ 家庭における計画的な学習の進め方の確立や学習時間の確保、家での読書時間の確保が求められる。
- ・ 本市の児童生徒の携帯電話やスマートフォンの所有が増える中、それらの使用についてのルールが不十分な傾向が見られる。テレビ視聴時間を含めて、家庭において早急にルールを決めていく必要がある。

3 柳川市児童生徒の学力向上に向けての施策と基本構想

(1) 柳川市教育委員会

- ・調査結果の分析
- ・学力向上の基本構想の策定
- ・各学校の取組状況の確認・指導
- ・学力向上のための指導主事派遣
- ・研修・啓発資料の作成
- ・授業時数実施状況の確認
- ・9年間を見通した小・中学校の共通実践

(2) 小学校

◎学校実態に応じた短期的取組、中・長期的取組の設定

- ・教材研究の力を向上させる校内研修の充実(事前研究会の工夫)
- ・中学校とのつながりを意識した教育活動の実施
- ・若年教師の授業力の向上を図る研修会の実施

(3) 中学校

◎学校実態に応じた短期的取組、中・長期的取組の設定

- ・模擬授業や事例研究を含めた授業を伴う実践的な研修の実施
- ・生徒自ら課題を設定し、解決していく授業作り
- ・全職員による自校の学力分析と学校全体での改善
- ・週案の定着と活用
→教育課程の記録簿から計画簿への移行、教育課程の確実な計画、実施、評価

(4) 小・中学校共通の取組

【授業において】……………取組の中核である。

- ◎授業研究を伴う小・中学校での研修会
 - ・中学校区における小・中学校間の公開授業の実施
- ◎教材研究に裏打ちされた授業の充実
 - ・解説書の内容分析、教科書活用、教材の工夫等
 - ・主題研修・一般研修の日常化
 - ・調査問題等の授業への活用
- ◎児童・生徒の見方、考え方、感じ方に寄り添った授業の確立
 - ・子ども達の鋭い反応を促す発問・板書等、授業技術の向上
 - ・レディネス調査、授業中の形成的評価等からの授業構想・実践
- 道徳教育と関連づけた自尊感情を醸成する授業づくり
- 学習規律の徹底
 - ・落ち着いた雰囲気の中での授業実践
- 学習ノートの工夫と学年段階に応じた継続的な指導

【授業以外において】

- ◎補充学習の充実
 - ・評価に基づく補充学習の充実
 - ・各学校教育課程外に位置づけているドリルタイム、補充の時間の充実
- 家庭学習の充実
 - ・家庭学習をしない児童・生徒0%を目指す取組の充実(授業との連動、確実な見取り、保護者との連携等)
 - ・携帯電話やスマートフォン使用に関するルールの啓発

平成29年度
全国学力・学習状況調査
福岡県学力調査

『調査結果報告書(柳川市)』

平成29年12月発行

発行者 柳川市教育委員会
福岡県柳川市三橋町正行431番地
電話0944-77-8852(教育指導室)
